

香川県・坂出市

瀬戸大橋記念館

—夢を実現させた架橋ドラマ—

山中 稔 編集委員

瀬戸大橋記念館に到着すると、ゴーツという瀬戸大橋を通過する列車の音が私を迎えてくれた。瀬戸大橋記念館は、本州と四国を陸続きとした夢の架け橋・瀬戸大橋の完成を記念して、四国側の南備讃瀬戸大橋の足元に1988（昭和63）年にオープンした施設である。

館内では、世界最大級の道路・鉄道併用橋「瀬戸大橋」の架橋に至るまでの道のりや、9年半におよぶ架橋工事の全貌が、動く模型や映像、パネルなどでわかりやすく紹介されている。春休み期間中の多くの小学生が、館内に展示されている精巧かつ迫力のある瀬戸大橋の模型を、目を輝かせながら長い時間眺めていた。

記念館の方が、土木屋である私を最初に案内してくれたのが「瀬戸大橋をつくった男」といわれる土木技術者・杉田秀夫氏（当時、本州四国連絡橋公団坂出工事事務所所長）の胸像である。右横には、杉田所長自らが35回、延べ75時間の潜水により描き上げた南備讃瀬戸大橋7Aが設置される海底岩盤のスケッチ図が展示されている。この杉田氏を紹介するNHKテレビ『プロジェクトX―挑戦者たち―』の上映コーナーでは、時間を忘れて見入ってしまった。

瀬戸大橋が架かるまでは本州に渡る手段として宇高連絡船が多く利用されていた。瀬戸大橋開通の前日に廃止された宇高連絡船で実際に使用されていた双眼鏡や船長の制服、出航の合図に鳴らした銅鑼^{どら}など、当時をしのばせるものも多数展示されている。

記念館屋上展望台からは、延長9・4kmの瀬

戸大橋が一望できる。手前香川県側から吊り橋の南備讃・北備讃瀬戸大橋、斜張橋の岩黒島橋・櫃石島橋^{ひつししま}、そして最も岡山県側にある吊り橋の下津井瀬戸大橋まで、はつきりと見ることができた。子どもたちは、橋よりもむしろ双眼鏡で橋上を走る列車や車を眺めて楽しんでた。

瀬戸大橋開通と同時に開館した瀬戸大橋記念館は、昨年20周年を迎えた。これまでの来館者数は97万人。まもなく100万人に達する見込みとのこと。高速道路料金的大幅値下げで、瀬戸大橋をマイカーで渡って来る人がさらに増えそうである。瀬戸大橋を眺めるには、瀬戸内海に浮かぶ島々と橋がオレンジ色に染まる夕刻、そして瀬戸大橋がライトアップされる土曜日夕刻以降の時間帯（日没後22時）がお勧めとのこと。

Access アクセス

所在地 〒762-0065
香川県坂出市番の州緑町
6-13

電話 0877-45-2344（代表）

交通 JR坂出駅より→路線バス
20分、タクシー 10分
本州から→瀬戸中央自動車道
坂出北ICより3分
四国から→高松自動車道
坂出ICより15分

開館 9:00～17:00（入館は
16:30まで）

休館日 毎週月曜（祝日の場合は翌日）、12月29日～31日休。
ただし、GW・夏休み期間
は開館

入場料 無料

URL <http://www.setoohashi.com/>





瀬戸大橋(南備讃瀬戸大橋)のたもとに建つ瀬戸大橋記念館



ケーソン設置の海底地質を自ら潜水調査した杉田所長の胸像と岩盤のスケッチ



クレーンによる架橋の模型



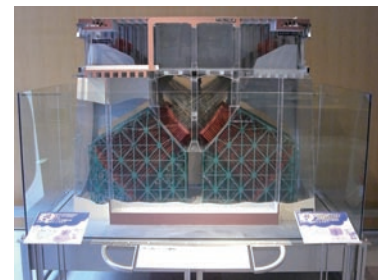
対岸の岡山まで一望できる記念館屋上からの眺望



多くのパネル、ビデオや動く模型が展示された館内



当時の宇高連絡船航路で使われていた双眼鏡



水深50mの海底に設置されたケーソン7A上のアンカレイジの模型